

# 浪江の

# こころ通信

・第46号・



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第46号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地  
「浪江のこころ通信」宛  
FAX.0243(22)4218





## 井上 コヨさん(権現堂)

取材者：ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 風間  
取材日：2月27日

### 今は、ここで楽しく暮らしています

現在、井上さんは、大熊町から避難してきた妹さんと二人で神奈川県横浜市で暮らしています。

毎日声をかけていただくお友達に恵まれて、穏やかに暮らされている様子でした。



▲右：妹の常盤ツメ子さん「姉は昔から、途中で投げ出さず、自分で頑張る努力家です」

■義兄に感謝  
地震から4日後、神奈川県に住む義兄が甥と一緒に、ガソリンを工面して悪路の中を迎えに来てくれました。嬉しくて涙が出ました。私たち姉妹とその子どもや孫まで総勢10人ほどが、義兄の家に避難し一か月半ほど暮らししました。着のみのままの私たちのために、義兄の知り合いの方々が毎日いろいろな品物を届けてくださいました。実の姉は震災前に既に他界しているのに、義兄はいつまでも縁を切らずにいてくれて、私たちに手

■人も気候もあたたかい  
市営アパートの抽選に当たり、2011年5月1日より私と妹はここで暮らしています。大熊町から避難している妹とは、浪江にいた時にも頻繁に行き来していましたが、まさか一緒に暮らすことになるとは思いませんでした。二人でいるから耐えられてきたと思います。ここに来た時は、家の中でも杖をついて歩いていたので、いざれ車いす生活になるのかと不安な気持ちでいました。妹から「歩かないと歩けなくなる」と言われ、迷惑をかけられない一心で、歩くことにしました。歩いて歩いて、1年半毎日歩きまわりました。散歩に出たことで、友達もできました。今では、杖がどこにあるかわかりません(笑)。お蔭さまで、散歩や買い物、旅行を楽しんでいます。福島に暮らす娘も毎月顔を見に来てくれます。大阪に避難した妹に毎年会いに行くのも楽しみです。4年近くここで暮らして、すつ

■浪江での思い出  
野馬追やお祭り、老人会も楽しかったのですが、「ふきのとう」に通っていたことが一番の思い出です。週に1回、昼12時半まで、人形作り、踊り、かくし芸、とつくり踊り、音楽といろんなことをやりました。15人前後のとても楽しい集まりでした。先日、「ふきのとう」の小林公子先生からお電話をいただき、懐かしくおしゃべりしました。浪江での思い出を大切に、ここでの暮らしを楽しみたいと思います。



## 佐藤 まみさん(川添)

取材者：浪江町役場 三瓶・鳴原  
取材日：2月9日

### 子どもの気持ちに寄り添える教師を目指して

日本福祉大学1年生の佐藤さんは、震災後に学校に通えなくなった経験を経て、特別支援学校の教師になりたいという目標に向かって頑張っています。これからやりたいことを笑顔で話すその姿から、しっかりとした強い意志と若いエネルギーが伝わってきました。(今回は役場二本松事務所でお話を伺いました)



▲笑顔で話す佐藤まみさんのこれからが楽しみです

震災当日は中学校の卒業式で、友だちと食事を終えて店を出た時に地震が起きました。幸い家族は無事でしたが両親は職場に向かったため、祖父母と弟との4人で不安な時間を過ごしました。避難先の高校では馴染むことができず不登校になってしまいました、なかなか外にも出られず、言葉さえ交わせない辛い日が続きました。通信制の高校に転校して卒業することができました。現在大学では、こども発達学部心理臨床学科で小さい子や障がい児の勉強をしています。それは、自分が経験したことで

わかる子どもの気持ちを支援する先生になりたいという目標を持ったからです。不登校の時は、うつが酷くて親にたくさん迷惑をかけてしまいました。愛知県の大学を選んだ理由の一つに、遠く離れて一人で頑張れたら一人前の大人になれると思ったこともあります。昨年6月に大学でサークルを立ち上げて、復興支援のチャリティ活動を始めました。人との関係、繋がりを大切にしていきたいという意味でRapport(ラポール)という名前を付けました。11月の大学祭では食彩酒房「鼓馬」と一緒になみえ焼そばを販売して、売上金の一部を浪江町に寄付することができました。普段の生活の中では、心無い言葉を掛けられて辛い気持ちになることもありましたが、この活動では愛知の人たちが「頑張ってるね」と言って募金をしてくれたり、いろいろな人にこういふ人がいるのだとわかってもらえたことが良かったと思います。今後は、子どもたちと一緒に歌を作ろうと考えています。それから、福島の仮設になみえ焼そばを作りに行きたいです。

今住んでいるところは半島で海に囲まれています。ゼミで南海トラフについて考えてみようという活動をやっていて、一度スライドショーで講演をしました。次は大学で、震災から今までのことを講演したいと思っています。震災を経験しているからこそ伝えられることを愛知で広めていきたいと思っています。震災が起きたことで高校は楽しめなかったけど、震災がなかったら大学には行ってなかったと思います。だからチャンスをもらった、勉強させてもらったと考えています。充実感があつて、今がとっても楽しいです。将来の目標は、特別支援学校の教師になること、障がいを持つている子と携わっていくことです。自分が経験したからこそ言えることを伝えたいです。震災を経験した子はナイーブで、少しのことでも傷つきます。そういうところを支援していきたいと思うています。不登校だったけど、こうやってちゃんとやっていける人がいるから大丈夫だよ。今がダメでもきつと良くなる時があるから、いくらでも直せるから大丈夫だよと伝えたいです。



岡 裕美さん(苅宿)  
横山 東沙さん(立野)・熊倉 江理さん(室原)



取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山  
取材日：2月28日

浪江高校陸上部女子は、いつまでもいつまでも、  
ずっと仲良しです

今回は、東日本大震災・原発事故発生の直前、3月1日に卒業式を終えたばかりだった、平成22年度浪江高校卒業生3人に集まっていただきました。この中の一人、岡裕美さんは、浪江のこころ通信第2号に登場しました。あれから4年経ち、20代になった女性たちに話を聞きました。

集まっていたのは、熊倉江理さんが住む茨城県水戸市。熊倉さんが長女の菜穂ちゃん(生後7か月)を連れてくることになり、梅まつりで賑わう偕楽園の眼前に広がる千波湖畔「好文cafe」でのインタビューとなりました。



▲茨城県水戸市。千波湖畔にて



岡 裕美さん  
福島市在住。今年からスノボを始めました！ライブに行ったりフェスに行ったり休みを楽しんでいます！

◆浪江高校陸上部では、どんな種目を得意にしていましたか？部活や学校の思い出も聞かせてください

岡 長距離です。

横山 マナージャーです。

熊倉 短距離です。

横山 一番印象に残っているのは、2年生の時の高校駅伝です。陸上部の部員が少なく、マナージャーも含めて、みんなで走るようになりました。猪苗代で開催されたのですが、成績はともかく、完走できたのが自慢です。

岡 毎日一緒に、とにかく練習、練習でしたね。

横山 津島から埼玉、栃木、新潟と、結構点々となりましたよ。新潟で就職が決まりました。転職し、今はいわき市に住んでいます。仕事は機械のメンテナンスを行う技術職で、現場での仕事が多いです。家族もいわき市にいます。



熊倉 江理さん  
水戸市在住。現在は夫と育児奮闘中



熊倉菜穂ちゃん  
(生後7か月)

横山 今日ここに来られなかったもう一人の友人も含めて、私たちは幼稚園、小学校から高校まで一緒なんです。特に高校2年3年は、みんな一緒のクラスでした。

岡 朝から晩まで、本当にいつも一緒だったよね。

熊倉 同学年の部員は男子3人女子4人。男子は浪江町以外から通っていましたが、女子4人

熊倉 私も最初は津島から川俣それから仙台でした。就職が決まっていたので、水戸には入社日に合わせて越しました。実は今、郡山市です。娘が生まれてからは、子育てに忙しい毎日です。

◆まもなく4度目の3・11を迎えますが、あの時のことや、ふるさと浪江に対して、今どんなふうにも思っていますか？

横山 あの日のことは、最近は思い出すことが少なくなりました。毎日が忙しく、自分のことで精いっぱいです。

熊倉 年月の経つのは早いなあ、つくづく思います。

横山 浪江には帰れないと思っていますが、思い出はそこで止まっています。友だちが頑張っているから、私も頑張れる。頑張る元気の源みたいなものではないでしょうか。

熊倉 「住めば都」と言いますが、水戸もいいところですよ。当たり前だった浪江は、一つしかないふるさとです。夫も言ってくれているのですが、いつか私



横山 東沙さん  
いわき市在住。気心の知れた友人と旅行するのが好きです。陸部との旅行では朝練は欠かせません(笑)

は全員浪江で、とにかく仲がいいんです。今でも後輩も含めて6人くらいで旅行に行っています。一昨年は那須、昨年は鬼怒川でした。会うと、専ら近況報告と高校や部活の話になりますね。

◆皆さんの避難の様子やご家族のこと、今の暮らしなどをお聞かせください

岡 私は福島市に避難して、家族と一緒に住んでいます。昨年、仙台の専門学校を卒業し、伊達市内の介護老人保健施設に就職し、リハビリの仕事をしています。今、とても忙しいです。

の故郷を子どもたちにも見せてあげたいと思います。

岡 一緒に遊ぶのは浪江の友だちです。帰れないけれど、故郷をつないでくれているような気がします。

◆最後に、皆さんの目標、夢など、これからに向けたコメントを聞かせてください

岡 早く仕事に慣れたいです。それから、結婚もしたいですね。

横山 私の仕事は、必要な資格が多いので、それらを制覇したいと思います。

熊倉 まずは娘の無事な成長でしようか。私は三人姉妹なので、子どもも3人は欲しいです。それと、なるべく早く仕事に復帰したいです。

岡 私たちはこれからも、おばあちゃんになっても、ずっと仲よくしていきたいです。